

慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resources

Title	日本企業におけるトップ交代プロセスについての一考察
Sub Title	
Author	齋藤秀彦(Saitou, Hidehiko) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
Abstract	
Notes	連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1438

所属ゼミ	高木 研究会	学籍番号	89728451	氏名	齊藤 秀彦
(論文題名)					
日本企業におけるトップ交代プロセスについての一考察					
(内容の要旨)					
<p>本論文では、日本企業におけるトップ交代のプロセス、特に「誰が」次のトップを選ぶのかという点に着目し、文献研究と企業経営者など15名に対するインタビュー調査を通じて、現状を明らかにするとともに、今後日本企業にとってどのようなトップの選考方法が望ましいかという提言を試みている。</p> <p>具体的には、まず第1に日本の大企業におけるトップ選びは、商法のルールとは異なり、実質的には前任社長が後継社長を選ぶやり方になっていることを確認した。第2に、そのような選考方法はいくつかの弊害を内包しているために、企業の発展に必ずしも適していないことを明らかにした。そして第3に、文献やインタビューを活用し、様々な角度から検討を試みたものの、前任社長に代わってトップ交代プロセスの主体者となり得るような決定的な存在は見当たらなかった。</p> <p>以上のような研究結果から導き出された結論は、トップ交代プロセスの進め方に単純な法則のようなものではなく、各々の企業が個別対応で選考しなければならないということであり、日本企業の特徴を踏まえると前任社長が選ぶというやり方も日本企業にとっては合理性のあるものではないかということである。そこで本論文では、新たなトップ交代プロセスとして、前任社長を選考の主体者として認めつつ、そこに内包する問題を解決するため、社長のスクリーニング機能をチェックする役割を果たす機能（機関）を設けることを提言している。</p>					